光晴会病院化学療法委員会
2024 年 12 月 16 日改訂

ニボルマブ療法（2 週毎）
（オプジーボ）

患者番号:　　氏名:　　性別：　　年齢:

がん種（適応）	腎細胞癌		
開始年月日	年　　月　　日		
1 コース期間	14　日間		
体格	身長　　cm　　体重　　kg　　体表面積　　㎡		
嘔気・嘔吐リスク	最小度	制吐剤	なし
特記事項			

投与薬剤	投与量	投与時間	投与スケジュール
オプジーボ	240mg （240mg/body）	30 分	Day1

【処方が必要な内服薬】

□HBs 抗原(＋) → 消化器内科紹介
□HBs 抗原(－) → □HBs 抗体(－)and HBc 抗体(－)
□HBs 抗体(＋)and/or HBc 抗体(＋) → □HBV-DNA 定量(－) → 3 ヵ月毎 定量
□HBV-DNA 定量(＋) → 消化器内科紹介

指示医師サイン＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

光晴会病院化学療法委員会
2024年12月16日改訂

免疫チェックポイント阻害薬　副作用対応連携シート

副作用	主な自覚症状	検査項目	ベースライン（投与開始時）○実施	モニタリングの目安	専門医へのコンサルトのタイミング
間質性肺炎	発熱、空咳、息苦しい、息切れ	胸部X線	○	投与時	左記の自覚症状発現の場合、左記検査項目の異常が認められた場合には、直ちにご相談ください。
		胸部CT	○	疑い時	
		KL-6　SP-D	○	2か月毎に2回	
内分泌障害	**甲状腺機能低下症**：身体がだるい、体重増加、徐脈、便秘、食欲低下など **甲状腺機能亢進症**：汗をかきやすい、体重が減る、甲状腺のはれ、胸がドキドキする、手の震え、不眠、発熱、下痢、振戦、食欲低下 **副腎機能不全**：身体がだるい、意識がうすれる、考えがまとまらない、嘔吐、むかむかする、食欲不振、低血圧、脱力感 **副甲状腺機能低下症**：手足の筋肉の痙攣、手足口の周りなどのしびれ	TSH・FT3・FT4	○	月1回	【甲状腺】 症状出現（倦怠感や動悸など）、TSH・FT3・FT4に異常が認められた際、TSHレセプター抗体、抗サイログロブリン抗体、抗TPO抗体を1回測定し、自己抗体陽性で症状発現時はコンサルト 【副腎】 ACTH・コルチゾールを測定した際、コルチゾール低値の場合にコンサルト
		抗サイログロブリン抗体 抗TPO抗体 TSHレセプター抗体	○	疑い時	
		iPTH	○	疑い時	
		ACTH　コルチゾール	○	月1回	
大腸炎 重度の下痢	下痢（軟便）もしくは通常よりも頻回の便通、血便もしくは黒くタール便で粘着質の便、重度の腹部痛もしくは圧痛	排便回数	○	投与時	Grade2以上の下痢、便回数の増加が認められた場合 （ベースラインと比べ4～6回/日以上の排便回数増加） 腹痛・下血・便失禁・発熱に特に注意
		腹部CT 大腸内視鏡検査	-	疑い時	
重症筋無力症 筋炎	**重症筋無力症**：上まぶたが下がる、物がだぶって見える、飲み込みにくい、しゃべりにくい、呼吸困難 **筋炎**：身体に力が入らない、発熱、飲み込みにくい、息苦しい、発疹、筋肉の痛み	CPK	○	投与時	目が下がってくる（眼瞼下垂） 飲み込みにくい（嚥下障害）症状発現時 あるいは、CPK1000IU/L以上の場合にコンサルト
		AChR抗体	-	疑い時	
1型糖尿病	**糖尿病**：身体がだるい、体重減少、のどの渇き、水を多く飲む、尿の量が増える **糖尿病性ケトアシドーシス**：意識の低下、悪心、嘔吐、腹痛	HbA1c グリコアルブミン	○	月1回 疑い時	血糖値が、急激に上昇した場合にコンサルト
		血糖 検尿（尿ケトン体）	○ ○	投与時	
		Cペプチド	-	疑い時	
皮膚障害	湿疹、かゆみ		○	投与時	Grade2以上の皮膚障害
肝障害	倦怠感、黄疸、嘔吐・嘔気、食欲不振、そう痒感	AST　ALT　γ-GTP ALP　T-Bil D-Bil LDH	○	投与時	左記の自覚症状の発現、又はGrade2以上の肝機能障害が認められた場合にコンサルト
		HBs抗体・HBc抗体 HCV抗体	○	感染歴がある方は3ヵ月毎にDNA量を測定	
心血管障害	心不全、心筋炎、心房細動、深部静脈血栓	PT APTT フィブリノーゲン 心筋トロポニンT NTproBNP Dダイマー　FDP	○	疑い時	左記の自覚症状の発現、又は検査値の異常時にコンサルト
		心エコー　心電図	○		
眼障害	充血、霧視、羞明、眼痛		○	投与時	左記の自覚症状が発現した場合にコンサルト
その他		Na　K　Cl　Ca　P TP　ALB　UA AMY　BUN Cr 血球算定（CBC） バイタルサイン	○	投与時	

※検査オーダーは検査セット、統合セットを作成していますので、そちらより使用してください

死亡例が報告されています。早めに専門医へのコンサルトをお願いします